

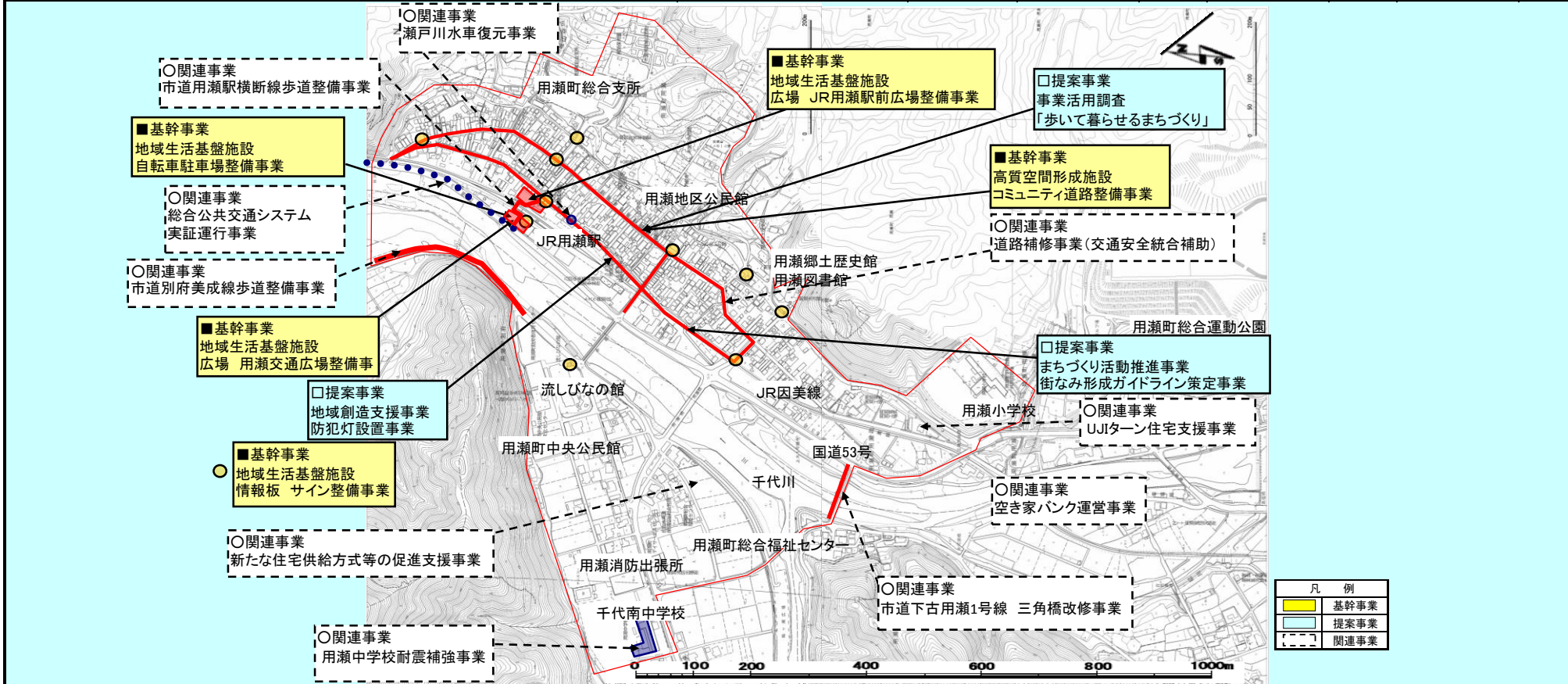
都市再生整備計画 事後評価シート(原案)
用瀬地区

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鳥取県		市町村名	鳥取市		地区名	用瀬地区		面積	57.0ha			
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	130百万円 国費率 0.4						
1)事業の実施状況	事業名												
	基幹事業		地域生活基盤施設:JR用瀬駅前広場、用瀬交通広場、自転車駐留場、サイン整備 高質空間形成施設:コミュニティ道路整備										
	提案事業		地域創造支援事業:防犯灯設置事業 事業活用調査、「歩いて暮らせるまちづくり」交通実験										
			事業名				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	当初計画から削除した事業	基幹事業		-				-			-		
		提案事業		地域創造支援事業:JR用瀬駅西口整備事業				関連社会資本整備事業(道路事業)として実施することとしたため			なし		
新たに追加した事業	基幹事業		-				-			-			
	提案事業		-				-			-			
交付期間の変更	当初	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				-					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	地区内の居住人口	人	973	H21	934	H26	-	893	×	あり	駅周辺には宅地開発の余地が少ないことなどから、地区内の居住人口増加につながらなかった。しかし、空き家バンクの活用などにより、地区周辺の世帯数は増加している。	-
	指標2	バスの乗降客数	人/日	81	H22	122	H26	-	106	△	あり	鳥取市全体の人口減少が進む中で、目標値の乗降客数5割増には至らなかったが、ダイヤ改正等により3割増となっている。	-
指標3	住みやすさの満足度 ※用瀬町全域を対象	%	52.3	H21	79.0	H26	-	56.9	△	あり	用瀬地区以外の居住者にとって、用瀬地区内での居住環境整備や用瀬駅周辺整備が直接影響していなかった。しかし、前回数値は上回っており、用瀬地区に限れば、69%が満足している。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	地区周辺の増加世帯数	世帯	16	H21	/	/	-	26	/	/	用瀬町全体で居住人口が減少しているなかで、用瀬地区周辺の世帯数が増加していることから、空き家バンクの活用などが効果をあげたと評価できる。	-
	その他の数値指標2-1	駅とバス停間の歩行時間	分	6	H21	/	/	-	2	/	/	跨線橋の設置により、遠回りすることなく、歩行時間及び距離が短縮され、駅とバス停の相互の利便性向上に効果をあげたと評価できる。	-
	その他の数値指標2-2	跨線橋の満足度	%	-	H21	/	/	-	60	/	/	跨線橋の設置により、「便利になった」との回答が60%以上と過半数となっていることから、効果をあげたと評価できる。	-
その他の数値指標3	住みにくい割合の減少	%	29.5	H21	/	/	-	6	/	/	用瀬地域(旧用瀬町)では居住環境整備や用瀬駅周辺整備により、「住みやすさ」に関する不満が29.5%から6%となっていることから、効果をあげたと評価できる。用瀬地区に限ると5%であった。	-	
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 路肩のカラー舗装により、自転車・歩行者が安心して通行できるようになった。 防犯灯を兼ねた照明灯整備により防犯上の安心感が生まれた。 駅前広場の整備により送迎や乗り換えなどの利便性が向上したという意見が多かった。 												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					-		
	住民参加プロセス	地元青年会と共に、JR用瀬駅前広場の活用について検討を行った。また、地域住民に駅前広場を芝生化していただき、自治会で芝刈りの管理を行っている。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					-		
	持続的なまちづくり体制の構築	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					-		

用瀬地区(鳥取県鳥取市)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 地域資源や交通特性を活かしながら安全で安心して暮らしやすい地域環境を構築し、地域生活拠点として魅力的なまちの実現をめざす。 目標1: 人に優しい道路整備や防災機能の強化により、安全で安心して暮らせる良好な居住環境の形成を図る。 目標2: 交通結節点機能の強化や公共交通網を再構築し利便性を高める。 目標3: 歴史や文化、景観を活かした環境整備によりまちの魅力を高め、居住者や来訪者の快適性を高める。	地区内の居住人口	973	H21	934 H26	893 H26
	バスの乗降客数	81	H22	122 H26	106 H27
	住みやすさの満足度	52.3	H21	79.0 H26	56.9 H27
	※用瀬町全域を対象				



まちの課題の変化	駅前広場や跨線橋整備による満足度が比較的高く、車や自転車、歩行者の利便性の向上が図れた。 防犯灯整備、路肩カラー舗装の整備による満足度は比較的高く、交通安全に向けた道路環境整備が行われた。 用瀬地区地域拠点再生整備検討委員会により、地域資源の発掘整理を行うとともに、地域生活に必要な施設等についての整理を行うことができた。 駐輪場、交通広場の整備やダイヤ改正等のソフト事業により、バス乗降客の増加が見られ、鉄道、バス利用相互の連携が強化された。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	安全で快適な交通環境の構築: 歩行者、車利用者の安全性、快適性の維持向上を図るとともに、災害に強いまちづくりのため、住民の意向を踏まえた生活道路を中心とした整備を推進する。 持続的なまちづくり体制の構築: 観光主体だけでなく、地区の課題解決に向けた住民の主体性向上の気運が高まる中、地元主体のまちづくり体制の支援を行う。 定住化の促進: 居住人口の減少を抑制し、幅広い世代・多様な居住の提供を図るため、空き家の利活用促進や未利用地について、将来ビジョンを示し、検討を進める。 公共交通の利用促進: 鉄道及びバス利用に関する魅力の向上施策を講じ、利用促進を図る。 自然や歴史・文化を大切に魅力あるまちづくり: 用瀬地域の宿場町の風情を保全・活用して魅力ある街なみ景観を形成していくよう検討を進める。